淡路島百景……49

播磨灘に落ち込む淡路西浦の風景

棚田越え海坂（うなさか）を指す秋燕

鬼本英太郎　兵庫県神戸市須磨区

選者講評　成川雅夫

「西浦県道を明神集落から南に来たあたりで、左折し坂道を登ると、海にぎりぎりまで迫った丘陵地に、昔ながらの淡路瓦の民家が点在するなか、棚田が広がり、その彼方に小豆島と播磨灘の水平線が弧を描いていました。9月、春から夏の間、近在を飛び回っていた燕たちが子育てを終え、南方に帰って行きます。」と作者が書き添えていた。颯爽とした帰燕の姿が描けている。

撮影／松崎純治（尼崎市）

景観解説●立ち位置からは俯角景観で、播磨灘の水平線が遮蔽なく見通せる。手前の民家は、屋根だけしか見ることができない。これは「固有景観」である。

淡路島百景……50

塩田地区の町並み

磯の香の塩田の家並片かげり

安田清一　千葉県木更津市

選者講評　稲山忠利

塩田の塩尾は海側の国道に沿うて細長い漁師町。夏の陽が傾く頃蔭になる家の前で海風を受け午ら床几で涼んでいる漁帰りの人や子供が車窓から見える。リズムもさる事午ら片かげりの季語も塩尾地区にぴったりである。

景観解説●まちは、部屋や家の延長として私達を包むもの。人は急激な変化を好まない。それが快い秩序となって町並みを定着させる。前面の道も港も後背の山も「リアルな現実の景」である。

淡路島百景……51

下司大名行列

祭唄乗せて大名行列来

小柴智子　兵庫県神戸市垂水区

選者講評　高田菲路

下司（くだし）大名行列は、江戸時代中期より始められた祭礼で、淡路市重要文化財に指定されている。特徴あるリズムの馬子唄にのせて演じられる独特の礼法所作を、端的に捉えて印象的な一句に仕上げていると思う。

景観解説●大名橋を渡って春日神社へ。震災被害を越えてなお続くこの行列は、地元人の強烈な矜持の顕われである。神への敬いの心を秘めて「意地の景」は粛々と進む。

淡路島百景……52

高倉山山頂からの眺望

朝涼に大阪湾の日の出かな

東　公嗣　兵庫県洲本市

選者講評　稲山忠利

夏の早朝登山は気分爽快である。安産の守護神高倉権現に心をこめて祈願、漸くして大阪湾に現われ始める太陽に手を合わす。振り返ると朝日に染まる播磨灘、阿波讃岐の連山、必ず今日も佳い日に違いない。

撮影／山本喜一（洲本市）

景観解説●景観では、異なる形や材質のものが接するところ「際」に気配りする。この薄明の「山と空と海」は自然が演ずる「際の景」である。無敵の美しさである。

淡路島百景……53

淡路七福神　宝生寺

胡麻干して淡路瓦の本普請

増田直美　兵庫県洲本市

選者講評　高田菲路

淡路瓦にも色々あるが、「本普請」と言うからには燻し銀の本焼を思う。庫裡の前に干された胡麻の温もりを連想する。重厚な伽藍の微光と干されある胡麻の対比が美しい。「宝生寺を訪ねてみたい」と思う。

景観解説●見ものは「反り」である。屋根が微妙に上に反っている。反り具合は我が国独自のもので、先人の美意識の高さを証明している。緊張感のあるしなやかな曲線（曲面）である。

淡路島百景……54

高田屋嘉兵衛公園

菜の花や嘉兵衛の航（ゆ）きし沖はるか

高田注連尾　兵庫県洲本市

選者講評　安原　葉

公園の眼下に広がる菜の花畑の黄色、その先の海へ向かって広がる嘉兵衛が生まれた町と海の青さを眺めていると、この美しい情景の里から北海道へ旅立った嘉兵衛の大志が偲ばれ、心が豊かになるという詩情濃い句である。

景観解説●北方の海を模した池と嘉兵衛の歩みを紹介する菜の花ホール。加えて、芝生広場の屋外ステージが、まるで嘉兵衛の持ち船辰悦丸の帆のようで、設計者の意図がよく分かる。

淡路島百景……55

菜の花エコプロジェクト

この島の地球にやさし花菜畑

内田泰代　兵庫県神戸市垂水区

選者講評　中谷のぶ

見渡す限り菜の花が咲き環境的に活用され素晴しいと作者の言葉がある。作者は神戸の方でこの島とは淡路島のこと。見渡す限りの菜の花を見てただ美しいと言わず、地球にやさしと菜の花畑を作る意味まで考えとらえた中七の措辞が見事である。

景観解説●ここは目映い春の郷。菜の花畑は果てしなく広い。想いは溢れ出るが言葉にできずに悶える。そんな景観に出会うことが誰にもある。

淡路島百景……56

サンセットラインから望む夕日

島一つ黄金に染めて秋落暉（らっき）

津田　宏　大阪府池田市

選者講評　大星たかし

明石海峡につづく播磨灘は東西に伸びているので、西浦からは海に落ちる夕日が眺められる。「島一つ」は淡路島だろう。「黄金に染めて」の美化表現が生きている。秋の落日は物淋しさを秘めて殊の外美しい。

景観解説●どこまでも変わらぬ海と空。この景を見守る真っ直ぐな海岸線と道路。これが大空間、これぞ自然公園。

淡路島百景……57

淡路富士・先山

淡路富士遥かに望み春田打つ

可知久子　神奈川県三浦郡葉山町

選者講評　安原 葉

通り掛りの車中から見た景色ではなかろうか。暖かになった日を浴びながら春田を耕している人がおり、その遥か遠くに淡路富士が姿を見せている。穏やかな淡路島の午後である。

撮影／東原正己（洲本市）

景観解説●見通し線を遮るものがない、単純明快な空間構成である。なだらかで伸びやかな山稜と、突出している先山のフォルムが、「背景の支配線」を構成している。

淡路島百景……58

先山千光寺とスダジイ林

淑気（しゅくき）満つ島山高く鷹の舞ひ

鈴木芳江　神奈川県三浦郡葉山町

選者講評　大久保白村

先山は淡路富士と称えられている。その頂きの千光寺に初詣に行きその淑気に感動した旅吟である。折柄、飛び立ち舞い上がった鷹の行方をいつまでも追う作者の視線を感ずる一句である。

撮影／岡 暢夫（南あわじ市）

景観解説●仁王門を額縁にして、本堂を「いけどり」にしている。珍しい雪景色である。赤と白の「色彩対比」が清冽。

淡路島百景……59

名号石のもみじ

礼拝の朝の静けさ薄紅葉

森　敦子　兵庫県洲本市

選者講評　三根香南

名号石は陀仏川の源流に位置する御堂の本尊である。紅葉の名所として知られる名号石は近隣の人々の信仰のよりどころとなっている。朝の日を受けた清浄な冷気は早紅葉を包んですがすがしい。

景観解説●大木が身を投げ出すように守っている小さな御大師さん。そこへの路は、鮮やかな紅に染まる。着くまでに相当な苦労を強いられる。「突っ込みどころがある不完全さ」もまたよし。

淡路島百景……60

洲本実業高校の桜

未来へと続く急坂桜舞ふ

門口佐代子　兵庫県洲本市

選者講評　正井良徳

小高い丘にある洲本実業高校には桜の木が多い。満開ともなると生徒たちの夢もふくらむ。校門までの急坂は、将来の夢に向かって歩む道であり、希望の未来につながっている。登校する生徒たちの頭上には桜の花ふぶき。

景観解説●入学式、卒業式。門を潜り門を脱ける。その時、桜は其処にある。青春の一時を共に過ごすという不思議な偶然。桜は特別な時間を演出する特別な花樹である。

淡路島百景……61

旧紡績工場のレンガ倉庫

悠久の煉瓦の館秋澄めり

脇田登志子　兵庫県洲本市

選者講評　鈴木貞雄

鐘紡の洲本工場は、島内最大の紡績工場として市の近代化に貢献してきた。その煉瓦倉庫は、いま図書館などに再利用されている。澄んだ秋気の中で、落着いた煉瓦の館は、悠久の時を紡いでいるかに見える。

撮影／東原正己（洲本市）

景観解説●明治から昭和の時代、淡路の産業をリードしてきた企業の赤レンガ倉庫。
洲本市政の発展の歴史を「景観の母胎」にして、端然と佇んでいる。

淡路島百景……62

島内最大規模の淡路島まつり

鰤背（いなせ）とは男踊の淡路の娘

髙野さち　兵庫県洲本市

選者講評　大久保白村

淡路島まつりには祭の本場徳島の阿波踊連も参加される島の大きな行事である。島の娘としても気合いの入る晴れの舞台である。鰤背に男踊りをこなす淡路娘の心意気を詠みあげた秀吟である。

撮影／西岡杏莉（洲本市）

景観解説●景観の構成要素は土地・構造物・人々などであり、祭りもまた景観そのものである。
大勢の島人が、衣装を凝らして参加する。まるで「淡路コレクション」のようである。

淡路島百景……63

厳島神社

宮参り氏子となりし花の下

山岡仁美子　兵庫県洲本市

選者講評　中谷のぶ

丁度友人のお孫さんのお宮参りに出会い感動し幸を祈ったと作者の添書。桜花爛漫の時厳島神社にお宮参りをし、氏子となった赤ちゃんの健やかな成長を祈り幸多きことを願うほほえましい句で作者の人柄が偲ばれる。

景観解説●人は神を通して暮らしの平安を願う。祝祭はそのクライマックス、神事もあれば奉納演技もある。参道には屋台が溢れ、餅まきには、老若男女が嬌声を上げる。弁天さんは「人と自然の結節点」である。

淡路島百景……64

大浜海岸

国生みの海光纏ひ新松子（しんちぢり）

永澤　功　神奈川県横浜市神奈川区

選者講評　稲山忠利

砂浜は少し狭くなった気もしますが今年は赤海亀の産卵が見付かったと嬉しいニュース。手入れの行き届いた砂浜とすばらしい松林、輝く海の波の光に映える新松子に作者のとこしえに栄える島への願いがこめられている。

景観解説●洲本、サンズイの巷。そのざわめきが消える此処は「和みの空間」。光を浴び、風を浴び、水を浴びる。誰しもを引き寄せる「共感の景地」。

淡路島百景……65

洲本城址

戦国の粗き石積み蔦紅葉

久納孝彦　神奈川県横浜市港北区

選者講評　安原 葉

蔦紅葉は「錦蔦」という名もあるように、掌状の葉が紅葉すると実に美しい。その蔦紅葉に色取られた洲本城址の石垣を眺めていると、その「粗き石積み」にも激動の戦国の世が偲ばれるという句。中七の措辞が見事である。

撮影／東原るび（洲本市）

景観解説●石垣、天守閣、月、これは「仰ぎの景」であり、「見上げの景」である。
昔から、お城は仰ぎ見て、敬うものである。

淡路島百景……66

洲本城址から眺める市街地と洲本港

海峡を統（す）べる天守や小春凪

大西紹夫　神奈川県横浜市港北区

選者講評　鈴木貞雄

三熊山山頂に建つ洲本城の天守閣は、北に大阪湾、南に紀淡海峡を望み、絶佳の展望である。天守閣から凪いだ海を見下ろすと、この天守閣が広い海峡を総めているように思われたのだ。

撮影／東原正己（洲本市）

景観解説●港とそれを取り巻く建物の密集が、ここが領域のはっきりした「城下町」だったことを感じさせる。「山を下りよう、街へ行こう」と思いたくなる。

淡路島百景……67

三熊山

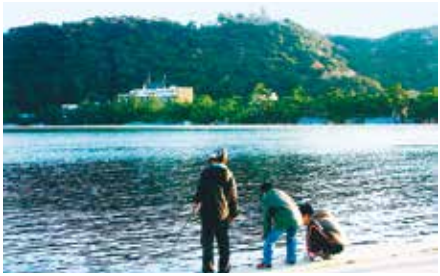
朝涼の天守浮かべて三熊山

高田英行　兵庫県洲本市

選者講評　大久保白村

朝涼は夏の朝のことであるが作者は涼しいうちにと散歩に出られたのであろう。洲本市からよく見える三熊山とともに新装となった天守閣を仰ぎ一日の活力を充電された作者の気持ちが一句から伝わる。

撮影／東原正己（洲本市）



景観解説●三熊山は洲本市民の行動の「座標の原点」のようなものである。市内のどこにいても、自身の居所を同定できる。人々の「寄す処（よすが）」になっている。

淡路島百景……68

曲田山浄水場の桜

城下昏（く）れ花雪洞（ぼんぼり）の点り初む

彦坂和泉　東京都大田区

選者講評　大星たかし

曲田山の展望台からは、谷一つ隔てた洲本城とその下に広がる町並が一望にできる。「城下」「昏れ」「花雪洞」「点り初む」の語が互いに響き合って、情感のにじむ一句に仕上がっている。

撮影／玉岡佳奈（洲本市）

景観解説●長い急坂さえも厭わない桜見の楽しみ。夜ともなれば、提灯に灯が入り、花姿を「ほんのり」と照らす。高地の浄水場は水手当の苦労の証、知れば興趣更に増す。

淡路島百景……69

大野地区から望む淡路富士・先山とひまわり

淡路富士晴れて稲扱（いねこき）日和かな

尾崎美佳　兵庫県淡路市

選者講評　高田菲路

洲本市の安坂・奥畑・内膳を地盤に聳える「先山」（448m）の姿の美しさを「淡路富士」と呼び、好天を称える。近年「稲扱」は殆ど見られなくなったが、視野に残る長閑な情景が懐かしい。

撮影／東原るび（洲本市）

景観解説●ひまわりの「密度勾配」が遠近を強調する。先山は遙か遠い。この景に“ドキッ”とさせられるのには訳がある。ひまわりの花言葉は「貴方だけを見つめていたい」である。

淡路島百景……70

五色浜

大灘の茜に染みて浜千鳥

片山紀子　兵庫県南あわじ市

選者講評　成川雅夫

冬の夕焼は長くは続かないが、烈しく荒海を燿かせている。浜辺にいる千鳥にも及んで茜色に染まっているのだという。美しい光景ではあるが、寒々としたものを感じる。

撮影／清水秀幸（南あわじ市）

景観解説●風景に人が配されると、物語が生まれる。砂浜とさんざめく海が、若い二人を祝福しているかのようである。わずかに沖合のブイによってのみ、遠近と海の広がりを推し量ることが出来る。

淡路島百景……71
成ケ島

由良の門に釣舟二三良夜かな

脇野信子　兵庫県淡路市

選者講評　安原 葉

淡路島の南東端に位置する紀淡海峡（由良の門）にある成ヶ島は淡路島の代表的な景観だが、秋の月がくまなく照らしている由良の門に、夜釣の船が二、三艘見えるという美しい静かな光景が見事に伝わってくる。

撮影／久留米敏仁（洲本市）

景観解説●成ヶ島は砂州でつながった陸繋島で、沿岸流が運んでくる砂礫が堆積してできたものである。潮力、波力、風力、掃力などの自然の力がもたらした「均衡の景」と言える。島の絶妙な曲線と海面の色のグラデーションが、ただ美しい。

淡路島百景……72
生石公園

夏草や由良要塞の煉瓦旧る

片岡徹也　兵庫県神戸市東灘区

選者講評　鈴木貞雄

大阪湾の入口に位置する由良は、昔から湾防衛の要として重要視されてきた。生石（おいし）公園とその近くには、江戸時代の台場跡や日本陸軍が築いた要塞の遺構が残されている。夏草にも埋もれた遺構は、時の流れを感じさせる。

撮影／山本喜一（淡路市）

景観解説●咲き誇る梅の花が反って廃れゆくものへの郷愁を掻き立てる。圧倒的な眺望が得られる視点場の魅力もあって、「時間軸と空間軸が交差する場」となっている。

淡路島百景……73

立川水仙郷と太平洋の遠望

花水仙波路はるかに紀伊の嶺々

平野絢子　兵庫県洲本市

選者講評　三根香南

立川は黒岩と並び水仙の日本三大群生地の一つ。行く手には沼島が、そして太平洋の眺望が展ける。眼を転じると、対岸には紀伊の嶺が横たわっている。晴れた日の水仙の群生と対岸の景は一幅の絵である。

景観解説●かっては隔絶された山間であったこの地を一変させた「開拓の景」。一面に拡がる水仙ナルキッソス、内に“毒”を秘めながらも、その姿は清楚そのもの。

淡路島百景……74

鮎屋の滝と源氏ホタル

滝壺の昏（くら）きになれてほととぎす

萩原征恵　兵庫県南あわじ市

選者講評　稲畑汀子

山深い滝道を行くと鬱葱と茂る木々に覆われて行く。聞こえてくる滝音が徐々に近づき高まってゆく中に聞こえてくる時鳥（ほととぎす）の声。目が昏さに馴れ、耳が澄んで来てとらえる時鳥の声が続いて行く。

撮影／新福 功（淡路市）

景観解説●滝は、空間のアクセントで、知覚に働きかける「プレイスマーク」の性格を持っている。その場に立てば、人々は五感を総動員して観ることになる。もし、ホタル吹雪を見られる幸運があったとしたら、想像を超える景観になることであろう。

淡路島に生まれ 全国に名を馳せた俳人

日本伝統俳句協会会員
ホトトギス同人　高田菲路

永田青嵐　ながたせいらん　一八七六年～一九四三年

倭文長田の人。本名、秀次郎。初め正岡子規に就き俳句を学ぶ。二十七歳で洲本中学校長。その後官界に出て知事警保局長などを経て、大正七年貴族院議員、更に昭和十一年拓務大臣、同十四年鉄道大臣。また、関東大震災当時及び、欧米視察後の二度に亘り東京市長に選ばれ、市の復興を果たすと共に、大都今日の基礎を培った。他にも拓殖大学長、帝国教育会長に就任、文教に尽くす。著書も多く、その平易で洒脱なラジオ放送は、全国の人々に親しまれた。『青嵐句集』には、子規選の二七六句、大正、昭和に亘る虚子選の二千二百五句が収められている。

永田青嵐として、虚子以外の俳句会に拘わらなかったことはよく知られていた。

傀儡師波の淡路の訛かな　青嵐

高田蝶衣　たかたちょうい　一八八六年～一九三〇年

旧津名郡釜口生まれ。明治三十七年、洲本中学校卒業。のち早稲田大学政治経済科に入学するも、病を得て帰郷。小学校に奉職したが病気のため続かず、専ら句作を主として『ホトトギス』と『懸葵』に投句の傍ら句集『島舟』を刊行した。

ホトトギスに在っても、河東碧梧桐らと交友深く、俳句巧者として知られた。一九一七年、神戸湊川神社の主典として奉仕するも体調整わず死亡。没後、蝶衣句稿『青垣山』が刊行された。蝶衣については学生時代、多くのエピソードが残されている。旧士族。

この国を表裏つくりて山眠る　蝶衣

岩木躑躅　いわきつつじ　一八八一年～一九七一年

旧津名郡生まれ。本名、喜市。明治三十二年高浜虚子に師事。医学を志し上京するも、虚子の家に入り浸りで留守番や雑務を手伝う。躑躅は、虚子がその弟子に付けた最初の俳号と言われている。父が死去のため、一年あまりで神戸に戻り、家業の接骨院を継ぐ。

虚子の『進むべき俳句の道』という書に採り上げられ、「君は情けの人」と評され句集の序文にも、虚子は「躑躅君ハ誠ノ人デアル。躑躅君ノ句ハ誠の句デアル。躑躅君ニ在ッテハ俳句ハ即宗教デアル」と言わしめ、その誠実さを評価している。

関西にホトトギス派が結集した大正の中期から、既に関西俳壇の重きをなし一九五一年、兵庫県文化賞を受賞した。内面に情の籠もった句の多いことで知られた。

故郷とは暖かき名よ草木の芽　躑躅

その他の俳人と代表句

奥田雀草　おくだじゃくそう
みほとけの夢が木の実の夢となる

直原玉青　じきはらぎょくせい
城山に出る月今も昔かな

竹田士栖　たけだしせい
考える手をやめずして落葉掻く

鯛中李長　たいなかりちょう
日のたけて田中はなるゝ柳かな

淡路島の句碑

淡路島には多くの俳人の句碑がある。
その一部を記載する。

玉椿
さすがに赤し
故山摩耶

岩木躑躅
麻耶山鷲峰寺
場所：淡路市野田尾摩耶

C

雲の峰
淡路に尖る
峰はなく

五十嵐播水
静の里公園
場所：淡路市志筑

D

おもひ入る
奥にいま見る
桜かな

小山青岐
遍照院
場所：洲本市栄町

E

海のある
国うれしさよ
初日の出

高田蝶衣
妙勝寺
場所：淡路市釜口

A

仰ぎ見る
千年の紅葉
神の庭

藤井紫影
洲本八幡神社
場所：洲本市山手

F

みほとけの
夢が木の実の
朝となる

奥田雀草
東山寺
場所：淡路市長澤

B

御堀まで
御門筋とて
蜻蛉とぶ

直原玉青
淡路文化史料館
場所：洲本市山手

G

H

傀儡師
波の淡路の
訛かな

永田青嵐
大浜公園堀端
場所：洲本市山手

I

海見えて
風花光る
ものとなる

稲畑汀子
大浜公園堀端
場所：洲本市山手

J

震災忌
吾に古りゆく
月日かな

永田青嵐
青嵐墓所・観音寺墓地
場所：南あわじ市倭文長田

K

聚英の
樹下に溢るる
涼しさよ

服部嵐翠
小榎列集落センター
場所：南あわじ市榎列小榎列

L

梅一輪
一輪ほどの
あたたかさ

服部嵐雪
おのころ島神社
場所：南あわじ市榎列下幡多

M

梅が香耳に
のっと日の出る
山路かな

松尾芭蕉
賀集八幡神社
場所：南あわじ市賀集八幡

N

野遊の
心足らへり
雲とあり

高浜年尾

白牡丹と
いふといへども
紅ほのか

高浜虚子

空といふ
自由鶴舞ひ
やまざるは

稲畑汀子

国清禅寺
場所：南あわじ市松帆西路

O

渦潮を
両国の岬
立ちて見る

山口誓子
門崎・道の駅うずしお
場所：南あわじ市福良丙

P

若布刈
いづれが近き
撫養福良

永田青嵐
ホテルニューアワジプラザ前
場所：南あわじ市阿万吹上

企画・構成　鬼本英太郎

淡路島百景……75

玉ネギ小屋の風景

潮風に玉葱小屋の匂ひけり

寅屋照夫　兵庫県神戸市須磨区

選者講評　安原 葉

玉葱は淡路島の代表的な農産物で、夏は収穫した玉葱を乾燥・熟成させるための玉ネギ小屋が各地に点在し、道行く人に吹く潮風に玉葱の香りも匂ってくる。訪れた旅人にも玉ネギ小屋と玉葱の匂いが印象に残るのである。

撮影／井上淳一（南あわじ市）

景観解説●玉ネギ小屋が散在するのは、この地の「農業構造」を表し、玉ネギ小屋そのものは、この地を同定する「符号」である。南淡路を代表する「農業景観」である。

淡路島百景……76

広田梅林

大宮寺へ続く小径や梅ふふむ

坂本建治　兵庫県神戸市中央区

選者講評　鈴木貞雄

大宮寺と広田八幡神社の裏山にある広田梅林は、梅の名所として知られている。作者が訪れた日は、ちょうど蕾が膨らみかけた時分で、魁けの花がちらほら眺められた。一句のなめらかな調べが心地よい。

景観解説●梅林は眺める空間ではなく踏み込み分け入る空間である。ここは、丁寧に設えた「移動空間」である。梅の木の別名は「春告草」で、「春告魚」はイカナゴのことであるから、梅は淡路島にふさわしい花木である。

淡路島百景……77

恋の森

筒井筒山茶花の紅極まれり

正井香代子　兵庫県南あわじ市

選者講評　稲山忠利

筒井つの井筒にかけしまろがたけ過ぎにけらしな妹見ざるまに。筒形の井戸囲いで比べた私の背丈も逢わぬまに伸びてしまったという恋の歌を下敷に燃えている真赤な山茶花を対比した格調の高い句。因みに花言葉は理想の恋。

景観解説●「戸」は一人通るところ。戸が二つ向き合って「門」、一族郎党が通るところだ。鳥居は一種の門、夫婦で通り仲良きことを願う。台所の神は男女仲まで見守ってくれる。

淡路島百景……78

淡路ふれあい公園とサンライズ淡路

白亜紀に想ひ馳せたり春一日

服部達明　兵庫県南あわじ市

選者講評　正井良徳

この地は約7000万年前の地層から二枚貝やアンモナイトが出た化石の宝庫だ。そこには、少年の心を持ちつづけ、化石や星座、銅鐸に時空を越えてロマンを求める作者がいる。化石に着目したところが秀逸。

景観解説●水は人間の生命の起源。「水」は常に「人」に寄り添ってきた、それはまるで両者が「組曲（SUITE）」を奏でてきたかのようである。水にふれあう機会が少なくなった今日、子供達にこのような環境を提供することはとても大事である。

淡路島百景……79

慶野松原

波の音残して消ゆるキャンプの火

内田　進
兵庫県神戸市垂水区

選者講評　成川雅夫

先刻までは、そちこちにキャンプファイアが焚かれ、賑やかに若者たちの声が弾んでいた。やがて、一つ二つとキャンプの火が消えていき、慶野松原には波の音だけが残った。多くの人が持つ思い出でもある。

撮影／西畠史洋（南あわじ市）

景観解説●ここは、ハイブリッド空間である。外部にありながら、内部のような空間である。クロマツ林、林床、淡路瓦を使った散策路、波の音、潮風が醸す「空間の質感」が人々をストレスから解放する。

淡路島百景……80

おのころ島神社と芦原国

天高し畏（かしこ）み潜る丹の鳥居

小島愛子
神奈川県川崎市多摩区

選者講評　安原　葉

国生みの伝説の舞台である淡路島の中心は何といってもおのころ島神社と芦原国だろう。神社の朱塗りの大鳥居は高さ21.7メートルだそうだ。天高い秋空に立つ丹の大鳥居を畏み潜る作者の心情が伝わってくる。

景観解説●鳥居は、景観を分節する。通りぬけると「何かが変わったな」という意識を人々にもたらす。その形態と色彩が、鳥居を「ランドマーク」にしている。鳥居には、記号性がある。

淡路島百景……81

淡路島牧場

親牛のどかつと座る朝曇

仲岡かつみ　兵庫県南あわじ市

選者講評　成川雅夫

子牛に乳を飲ませ、自分も充分に草を食んだ親牛は、満足気に悠然と草の上に座っている。「どかつ」という表現が働いている。

撮影／笹本信子（神戸市）

景観解説●こぢんまりとした「キッズサイズ」の牧場である。動物を見ると、「ほのぼの感」が沸き立つ。子供たちは、動物とふれあい、牛の乳搾りなどを体験して喜ぶ。家族も、幸福に包まれる。

淡路島百景……82

淡路ファームパーク・イングランドの丘

コスモスの丘に風音なかりけり

田附光映　兵庫県神戸市東灘区

選者講評　稲畑汀子

淡路島は花一杯の島である。ファームパーク・イングランドの丘のコスモスはさぞ美しい光景であろう。やわらかい風がコスモスを揺らし渡ってゆく。音がないと気づいたコスモス叢のやさしさが見えてくるようである。

景観解説●コスモスの花言葉は「調和・謙虚・少女の純真」である。納得できる。コスモスの「揺らぎ」の様は人々に快感をもたらす。

淡路島百景……83

淡路だんじり祭

天高しだんじり唄の朗朗と

今井文代　兵庫県南あわじ市

選者講評　中谷のぶ

雲ひとつない島日和。郷土愛に満ちた若者の声が青空へ放たれていたと解説があり、説明の要はない。季語は天高し。祭での唄を朗朗と余韻を持たせあとまで残る響きを詠みあげた秀吟である。

撮影／向 泉（南あわじ市）

景観解説●練り、担ぎ、曳き、投げ、獅子舞、唄、踊り、太鼓・・・何でもあり。鯉のぼり舞う空の下、皆打揃って大騒ぎ。5重の「ふとん壇尻」が主役である。

淡路島百景……84

淳仁天皇陵

亀鳴くや廃帝陵のしんのやみ

稲山忠利　兵庫県南あわじ市

選者講評　安原 葉

藤原仲麻呂に擁立されて即位し、仲麻呂失脚により廃位して淡路島に流され、淡路廃帝と称された淳仁天皇の昼なお暗い常緑広葉樹が茂る御陵を、空想の春の季題「亀鳴く」によって詠んだ句だが、亀は棲んでいる。

撮影／中島輝子（神戸市）

景観解説●平野部にぽつんと盛り上がっているのは御陵。樹木がこの起伏を強調している。古の歴史のベールが、この特異な地形を覆っている。

淡路島百景……85

八木馬廻地区のしだれ梅

紅梅や揺れて枝垂るる日の光

正井良徳　兵庫県南あわじ市

選者講評　大久保白村

八木馬廻の樹齢60年を越えるしだれ梅は個人の庭にあるが開放されている見事なもので夜はライトアップまでされている。日の光にきらめきしだれる壮観に佇まれた感動の伝わる一句である。

撮影／新福 功（淡路市）

景観解説●個人のお屋敷から公的な場へこぼれ出る「つなぎ空間」である。限られた季節だけの「ピンポイント景観」である。

淡路島百景……86

上田池ダム石積み式堤体

堰切ってダムより溢る春の水

山岡仁美子　兵庫県洲本市

選者講評　大久保白村

上田池（こうだいけ）ダムは淡路島の水不足を解決する為に作られた。その歴史を知る地元の作者にとり放水される水音は島に春が来たことを知らせる心強い韻きなのであろう。句も格調高く地元賛歌の秀吟である。

景観解説●全国で10基しかない戦前の農業用重力式コンクリートダムのうちの一つ。「機能美」に加えて「意匠美」を感じさせる数少ないダムである。設計と施工にあたった技術者に敬服の念を禁じえない。

淡路島百景……87

諭鶴羽山、諭鶴羽神社と諭鶴羽ダム

花万朶（ばんだ）ダム湖は空の蒼湛ふ

平山幸子　兵庫県南あわじ市

選者講評　高田菲路

諭鶴羽山は淡路島第一の高い山である。600メートルを超える山は他に無い。大小のダムが湛える水に映える万朶の桜は殊に美しい。澄みわたる大気を想わせて爽快である。

景観解説●諭鶴羽山で一括りにされているが、二つの異質な景が混在している。神社は「古代の景」で、ダムは「現代の景」である。双方に共通するのは「山奥の霊気」である。

淡路島百景……88

灘来川地区から望む沼島と海岸線

渡し船見て居る日向ぼこりかな

酒井土子　神奈川県横浜市港北区

選者講評　稲畑汀子

淡路島は広い。山あり川あり入江あり。日向ぼこして渡し舟を見ていると、昔は本土をつなぐ橋がなかったので船がもっと頻繁に行き交ったであろうと思って見る渡し舟は静かな情景である。

撮影／奥田晃介（京都府）

景観解説●灘と沼島との間には西南日本の地帯構造を北と南にわける中央構造線が走っている。淡路島の南海岸は、20キロに渡る断層海岸である。ここは、海と断崖の「水平と垂直」「茫洋と峻嶮」の景観となっている。

淡路島百景……89

灘黒岩水仙郷

惜しみなく海へ水仙香を放つ

田口晶子　兵庫県宝塚市

選者講評　稲畑汀子

淡路島には水仙郷がある。野水仙の咲く頃は多勢の旅人がここを訪れる。水仙の群落する海辺は潮の香を消してしまうほど水仙の香りが強い。咲く頃の様子が想像されて水仙の咲く季節が待たれる。

撮影／石川栄一（洲本市）

景観解説●近くのものほど鮮やかに、遠くのものほど翳んで見える。近くのものほど色相豊かに、遠くのものほど青みが勝って見える。これは、「空気遠近」と「色彩遠近」の景である。

淡路島百景……90

うずしおの郷

観潮の船待つ旅の足湯かな

神木　修　兵庫県南あわじ市

選者講評　正井良徳

鳴門海峡の観潮船が発着しているうずしおの郷。待合所のある「なないろ館」の東側に隣接する足湯に、船を待って一時足を休ませた作者の心は、ほっこりと和み、旅の楽しみも増すというものだ。

景観解説●福良一帯には、湾奥から湾口へ向かう地形の太い軸線がある。人々の力もまた、同じ方向にある渦潮へ向かう。街の施設と形態は、この強いベクトルに支配されている。

淡路島百景……91

淡路人形浄瑠璃館（人形座）

元朝や守り継がるる式三番

松山光代　兵庫県洲本市

選者講評　大久保白村

淡路人形芝居は500年の歴史を持つ島の誇る文化財である。元日にその三番叟を見て、あらためて島人が守り継いできた伝統芸能に感動しての一句であろう。調べもよく格調も高い秀吟である。

景観解説●磨き抜かれた伝統芸が、ただ事ではない雰囲気を舞台にもたらせている。紺地に白色の紋章の引幕が背景を「きりり」と引き締めている。紋章は、この座の前身である吉田傳次郎座の一字を模したものである。

淡路島百景……92

ちりめんロード

軒先に玉葱吊し漁師町

後藤知朝子　東京都千代田区

選者講評　三根香南

期待して訪れたちりめんロードには、ちりめんは干されていない。しかし南あわじ市は全国にその名が知られる玉ねぎの産地、蟹の町の軒先の玉ねぎが目に留まった。どんな光景も句材となり得る、俳諧味のある佳句。

撮影／山本喜一（洲本市）

景観解説●シャカシャカと手繰る動きが小気味いい。足を止めて見とれる。ちりめんのにおいが漂い、味わいの記憶が戻ってくる。食欲を刺激する「名物景」である。

淡路島百景……93

福良湾、煙島、大園島の展望

出漁の鯛網船の鏡餅

並木桂子　東京都目黒区

選者講評　大久保白村

島の正月を縁あって初旅に選ばれた。その得がたい経験を一句に見事に纏められた。焦点を鯛網船に据えられた鏡餅に当てているがおのずから一湾の活気や正月の雰囲気が見えてくる。練達の一句と拝察した。

撮影／森崎好美（南あわじ市）

景観解説●福良湾、漁船、煙島、建築物、大鳴門橋、写真はこの地の景観資源群を全て切り撮っている。特徴ある形状の煙島は「景観の重心」になっている。

淡路島百景……94

大鳴門橋と鳴門海峡の展望

橋脚に渦解く潮の打砕け

可知久子　神奈川県三浦郡葉山町

選者講評　成川雅夫

渦潮を外連味なく、正確に客観写生をしている。その上に、力強さの感じられる点も評価出来る。潮の砕ける音が聞こえて来る。

撮影／武田照美（洲本市）

景観解説●科学技術を代表する吊り橋と自然の不思議を視覚化した渦潮のせめぎ合い。平成26年末には「兵庫・徳島『鳴門の渦潮』世界遺産登録推進協議会」が設立され、地元団体が結束して、この地の世界遺産登録を目指すこととなった。

淡路島百景……95

淡路じゃのひれフィッシングパーク

玉ジャリを裸足で歩く浜涼み

高野優子　兵庫県南あわじ市

選者講評　中谷のぶ

戦没学徒記念若人の広場の近くにあるじゃのひれは福良湾に面した海釣公園。昔の海岸は玉砂利が敷き詰められて夕方から夜になると程よい温かさになったと言う。裸足でその感触を求めたなめらかな調べが心地よい。

景観解説●魚釣りは多少の危険を伴う。ここには、その懸念を払拭する「安全装置」が備わっている。父上達が、日頃のずぼらを家族に謝す「償いの場」でもある。

淡路島百景……96

若人の広場

岬鼻に慰霊の灯小鳥来る

高野さち　兵庫県洲本市

選者講評　鈴木貞雄

福良湾を見下ろす高台に、太平洋戦争で亡くなった学徒の霊を慰める鎮魂の塔が建っている。その慰霊の灯に、秋になると、海を渡って小鳥たちがやってくる。あたかも、学徒の御霊のように・・・。

景観解説●慰霊塔が有無を言わさぬ焦点となっている。塔の下部にある「若人よ天と地を結ぶ灯たれ」の碑に設計者の意図を知ることができる。慰霊塔のモチーフはペン先。

淡路島百景……97

吹上浜

夕闇に撫養（むや）の灯望む夜涼かな

高野優子　兵庫県南あわじ市

選者講評　鈴木貞雄

淡路島の南端にある吹上浜は海水浴場として知られているが、土地に人々は夕涼みにも足を運ぶ。白砂青松の浜と海峡に闇が下りると、対岸の撫養の町に灯が点り、えも言われず美しいのである。

撮影／井上淳一（南あわじ市）

景観解説●風の音と波の音が聴こえてくるような「サウンドスケープ」である。オン・シーズンの喧騒はどこかへ行ってしまった。

淡路島百景……98

阿万海水浴場とウミホタル

星飛んで闇にこぼれる海蛍

萩原征恵　兵庫県南あわじ市

選者講評　三根香南

島の南端、阿万の浜辺は、昼は海水浴場、そして夜は星の美しいところ。「星飛ぶ」という幻想的な季題選びが効を奏し、海蛍の習性を一層際立たせて魅力的。海蛍なるものを見てみたい思いに駆られる。

景観解説●米粒ほどの生物が、健気にも外敵を威嚇している。マリンブルーは、傷心・孤独・悲哀の色。からかうのは気が引けるが、手で掬いたい気持ちを抑えきれない。

淡路島百景……99

沼島地区の自然と一体となった町並み

濤高き神話の島へ初渡船

西川玲子　愛知県名古屋市港区

選者講評　大久保白村

淡路島から見れば沼島は離れ小島である。しかし同じ神話の島である。神話の島から島へ初渡船とは淡路島ならではの体験といえよう。連絡船で感じた濤も高く強かったが神話の世界へ踏み込む昂ぶりを感じたのである。

景観解説●「日本の建築は屋根、西洋の建築は壁」 屋根の景は、我々をほっとさせる。寄り添いながら生活してきた証の高密度家屋空間である。まちの形態がこの島の「アイデンティティ」である。

淡路島百景……100

上立神岩と裏海岸

卯波立つ神の造りし岩一つ

宇留野村畝　神奈川県藤沢市

選者講評　安原 葉

淡路島本島から4キロメートル離れた沼島だが、紀伊水道と大阪湾に面する沼島は本島と異なる結晶岩でできている。その代表が上立神岩（かみたてがみいわ）である。国生み神話伝承の地らしい奇岩で、折からの卯波に一層神秘的である。

撮影／川添卓也（洲本市）

景観解説●黒潮の波食により現出した絶壁・岩礁は、鋭角な直線で構成されている。対して、砕波は曲率無数の曲線の集合体である。「直線と曲線」の景観は、荒ぶる自然の魅力を伝えている。

旅は宝探し

俳句で詠む淡路島百景作成委員会
委員長　三根香南

折しも兵庫県政百五十年の節目の年に、淡路島の百の景観に百の俳句が揃うという完成版が満を持して世に出ました。

井戸敏三兵庫県知事はじめ、歴代淡路県民局長のご英断に感謝の意を捧げます。

さて、明治政府が行った廃藩置県で淡路島は兵庫県に属しましたが、今もって徳島県と思われている方が少なからず居られます。

淡路島は国の始まりの島、その所在は兵庫県ですと伝える役割を、この一冊が担ってくれるとの思いを込めて作成委員会は編纂に当たりました。

ところで、旅の楽しみ方も人によって様ざまですが、ぜひ、この一書を携えて淡路の各地をめぐり、折々の思いを五七五の調べに乗せてみませんか。淡路島の歴史や景観が、旅を何倍も楽しく豊なものにしてくれるでしょう。私は人生の後半に差しかかるころに、ふとしたきっかけで俳句と出合いました。以来三十数年の俳句人生で何がよかったと言っても、多くの人との縁に恵まれたことほど有り難いことはありません。

淡路が生んだ偉人、政治家でかつ俳人としても名を馳せた永田青嵐の随筆、『下手の幸福』の一文に、「私は如何に贔屓目に見ても俳句の天才ではない。唯平凡の横好きである。コロ柿俳人の仲間である。下手なりに固まって居る者はコロ柿である。凡そ余技は下手なほど仕合せである。」とあります。青嵐先生独特の洒落ではありますが、私には説得力のある言葉なのです。私自身、コロ柿俳句を余技にしたおかげで、淡路島百景とのご縁が生まれ、この島が俳句の島とよばれたいと熱望している一人の女性にも巡り会えました。淡路島を愛し、残る人生をかけて、コロ柿俳句を詠み、日本語を大切にする子どもたちに俳句隆盛の夢を託したいと思います。